



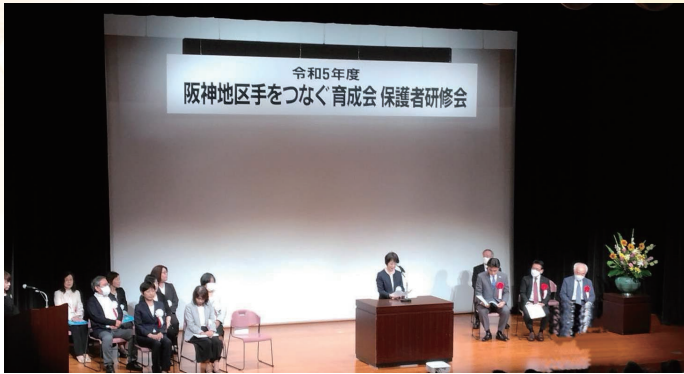
令和6年（2024年）2月27日

第88号

発行 一般社団法人 西宮市手をつなぐ育成会
〒663-8241 西宮市津門大塚町1-47
TEL 0798(33)7713
FAX 0798(33)7743



令和5年度阪神地区手をつなぐ育成会保護者研修会 IN 西宮



2023年10月5日（木）、西宮市フレンテホールにおいて、「令和5年度阪神地区手をつなぐ育成会保護者研修会」を開催しました。西宮市長 石井登志郎様をはじめ、ご来賓ご臨席の下、阪神地区の育成会会員が一堂に会し、盛大に行われました。式典では、主催者挨拶の後、西宮市長石井登志郎様、西宮市議会議長 山田ますと様よりご祝辞を頂戴しました。

研修会のテーマ「障害のある人の生涯学習」

第1部「共に学べる共生社会をめざして」



兵庫県教育委員会事務局社会教育課指導主事 赤松稔氏にご講演いただきました。行政機関、民間団体、特別支援学校、特別支援学校 PTA、病院、大学などによる持続的・継続的なネットワーク体制を構築することにより、障害の有無にかかわらず誰もが共に学び続けることのできる共生社会を実現

できるのではないかと等のお話の後、障害者の学びに関する情報を一元的に収集・提供する仕組みとして「学びの場一覧検索アプリ」を紹介していただき、検索を体験しました。

障害のある人を対象とした生涯学習を支援している団体や場所などの情報を見ることができます。



第2部は、「西宮青年生活学級」の活動の紹介

西宮市産業文化局生涯学習部地域学習推進課 担当課長 中西しのぶ氏、主査 吉田史氏、西宮福祉ボランティア「グループ雑草」会長 片山みどり氏にご講演いただきました。

昭和47年（1973年）に活動を開始し、今年度50周年を迎えた西宮市青年生活学級。



18歳以上で、知的障害のある市内在住・在勤の方が対象で、社会経験を提供し、集団行動や社会生活上のルールを学ぶことを目的として、月1回活動をされています。コロナ禍以前は、大人数での開催でしたが、今は同じ年代の人たちに分けて、3ヶ月に1回参加できる企画が催されています。

この活動の必要性や支援者の思い、また活動を支えるスタッフの高齢化による人材不足など、今後も継続していくための課題についても話されました。

研修会終了後は、来年度開催予定の尼崎市育成会へバトンが引き継がれました。

歩くアート！ 着てみるアート！

2023年8月27日（日）西宮市総合福祉センターにて、アート展でお世話になっている行永垂矢先生を講師にお迎えして、「歩くアート！ 着てみるアート！」をテーマとして、余暇活動を行いました。

真っ白いTシャツに絵を描いたり、スタンプやステンシルで模様をつけたりして、世界に1つだけのオシャレTシャツを作成しました。

また小さめのトートバッグに、さをり織り・裂き織りの布を貼り付けたり、絵を描いたりして、バッグを作成しました。

できあがったTシャツを着て、トートバッグにお弁当や水筒を入れて、お出かけするのもいいですね！



行永垂矢先生のアート創作に参加するのは4回目、今回も楽しみにしていました。白いTシャツにスポンジで色付けしていく作業は、楽しくて心地が良く、日頃のストレス解消になりました。

息子は、Tシャツにテープを貼るのが難しくて、ミニバッグに布をどうやって貼るのか考えるのが楽しかったそうです。

当日は参加者が多く、会う機会の少ない育成会の方々と顔を合わせることができたこと、会話のキャッチボールが無くても、自閉の息子と同じ空間で創作活動を楽しめたことは、とても貴重で有意義な時間でした。

次回も是非参加させて頂きたいと思います。素敵な時間を有難うございました。

社会人 中尾麻裕美



白いTシャツと小さいトートバッグにスタンプやステンシルで模様をつけたり、絵を描いたりしました。また、さをり織りを貼り付け、同じ布でリボンをつけてバッグを飾りました。

「Tシャツに花火を描いたよ！楽しかった！」

カラフルなTシャツとかわいいトートバッグができました。とても楽しい時間でした。

ワークメイト西宮 枇杷谷由美子



第48回にのみや市民祭り

2023年10月28日(土)、「想いをつなぐ 地域の絆」をテーマに、市民祭りが西宮市役所周辺で開催されました。お天気が良かったことはもちろん、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこと、飲食ブースや路上パフォーマンスの復活などから、早い時間帯から多くの人出がありました。

ふるさとブースに出展し、8月27日の余暇活動で制作した作品を展示しました。またご来場くださった方へアンケートを実施。ご協力くださった方へ、手作りのコースターやチャームを配りました。500名以上の方に見ていただくことができました。

作品へは、「個性豊かな作品ですね」「使っている色がキレイですね」などたくさんの感想を寄せていただきました。



ストリートギャラリー2023

2023年12月2日(土)～12月27日(水)の約1ヶ月間、札幌筋ストリートギャラリー（三菱UFJ銀行西宮支店、三井住友銀行西宮支店のショーウィンドウ）で開催しました。

行永亜矢先生監修の下、それぞれの個性が発揮された、明るくて楽しい、そして心温まるアート作品が並びました。各銀行に来店された方をはじめ、たくさんの方が見てくださり、地域で生活する障害がある人たちのこと、育成会のことを知ってくださるきっかけになれば良いなと思いました。



2023年度 オープンセミナー

「ともに育ち、ともに生きる」

日々の生活の中で起こる子どもとのトラブル、発達やコミュニケーションにとまどい悩む皆さんへの情報やヒントの提供の場として、会員だけでなく一般の方も参加いただいています。

第1回「一緒に考えてみませんか？」

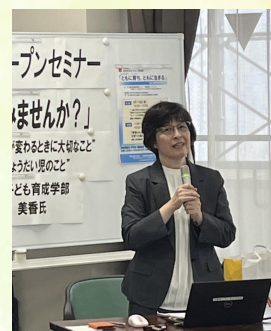
“障がいのある子の環境が変わるときに大切なこと”

“もう一人の当事者きょうだい児のこと”

日 時：2023年9月15日(金)

講 師：学校法人富山国際学園 富山国際大学子ども育成学部
准教授 河崎 美香氏

会 場：西宮市総合福祉センター



◆障がいのある子の環境が変わるときに大切なこと

先生が関わられた事例を挙げ、こどもの成長に寄り添っていく上での大事なことを、お話ししていただきました。

1 一人ひとりの発達に合わせて、自分で分かって動くことのできる援助の工夫。

環境が変わるとき、こどもにとって意に沿わないことをさせられることが多々あり、未学習・誤学習・不足学習のため、奇声・他害を生むことがあります。その時に大切なことは、嫌なことでも我慢して頑張ることで、できるようになり、褒めてもらえる、ご褒美がもらえるなど、できたことによる達成感(成功体験)を味わえるようにする。

成功体験により、頑張る力、自信も付いてくる。また、できることが増えることでルールなども学ぶことができる。

2 大事なことは、発達にあった援助の工夫は、こどもを良くわかってもらっていて、こども、保護者、支援者間の信頼関係があって、初めてなされる。また、信頼関係を向上させることは、生きていく上での力につながってくる。

◆もう一人の当事者きょうだい児

きょうだいは、いろんな思いを持って育ち、成長してきました。

親は、どうしても障がいのある子どもに目を向けがちになってしまいます。

だからこそ、

- 二人だけのスペシャルタイムをつくる
- 「どうして？」に対して、はぐらかさずにきちんと答える
- 「いつもありがとう」「大変じゃない？」
ねぎらい、本音トーク、共感
- きょうだい児が集う場、支援プログラムの活用

きょうだい児の話は、自分にも思い当たることもあり、小さいお子さんをお持ちの方は、参考にしていただければと思います。

(研修事業部 西澤和代)

第2回「障害のある方に知ってほしい災害への備え」

日時：2023年11月17日(金)

講師：西宮市 地域防災支援課 係長 村松 俊樹氏

会場：西宮市総合福祉センター



西宮市は地震、津波、土砂災害等全ての災害リスクがある街です。そして障害のある方の死亡率は健康者の約2倍。

その理由は

- ①自力での避難が困難なこと
- ②「災害関連死※1」のリスクが高いこと

だそうです。

※1 災害そのものを乗り越えても慣れない避難生活やストレス、心身の状態悪化を原因とする死

防災対策として、西宮の地域ごとの災害リスクや市からの情報取得のツール、また西宮市が取り組んでいる「地域避難支援制度※2」について説明していただきました。

※2 災害が起きた時に手助けを必要とする方に対して自治会など地域が連携して支援を行う取り組み
この制度の整備は、今年度育成会からの「市への要望書」にも盛り込んでいます。

避難所への移動や避難生活のためにも

- ・日頃から地域と顔の見える関係づくりをしておくこと
 - ・障害の特性に応じた備蓄をしておくこと（水や食料の他に常備薬や医療品）
 - ・フレイル予防（避難生活に負けないからだづくり）
- など、心がけておきたいことも学ぶことができました。

西宮市防災マップには避難する場所やそのタイミング、避難情報の入手方法（緊急告知ラジオ・アプリ・テレビのdボタン等）などが記載されており、地域情報が満載です。

この機会にじっくりと見直してみなければと感じました。



参加者からは「なんとなく不安に思っていたことがより現実的になった、できることから始めていきたい」「支援学校の防災リュック（個人個人のニーズに合わせて、医療品や薬などを学校に置きとどめてあるリュック）の取り組みが参考になった」などの感想をいただきました。質疑応答も活発で、防災士の充実・福祉避難所や個別避難計画への課題提起もされ、参加者の福祉と防災への関心の高さがうかがえました。

西宮市地域防災支援課のサイトには、たくさんの情報が載っています。



(研修事業部 山口朱美)

すずかけ 第2

西宮浜にある社会福祉法人一羊会すずかけ第2作業所。

20歳前後の方から70歳を超える方まで、幅広い年齢層の方が利用しています。

個別対応がしやすいように、特性に合わせてグループを編成されています。

1グループ 屋内作業がメイン

夏場などの除草作業の繁忙期には、外に出ることもあるそうです。

ボンドを使って貼り合わせるなど手先の器用さが必要な作業をされていました。

また金属部品を扱う作業では、ボルトの個数を数えるのが難しくても、その人にあったやり方を工夫されていました。

全体的な流れがわかりにくい人には、個別対応（個室）していました。



2グループ 屋外作業がメイン

就労意欲や工賃に対する意識が高く、屋外作業など、体を動かすことができる元気な方たち。

作業に出ているので、会えませんでした。

忙しくないときは、屋内で作業することもあります。

働く時は、しっかり働き、レクリエーションの時は、思いっきり楽しむそうです。



3グループ 作業と活動（バランス型）

障がい特性に応じた支援を重視し、それぞれの時間ペースと環境を大切にしているグループです。

資源回収（新聞、段ボールなど）の野外作業も行います。

1グループと同じ作業、100円ショップ商品の組み立てなどの仕事をしています。作業だけでなく、活動も重視しています。

イチゴの栽培やキンギョの飼育を行っていて、育ていく楽しみなどを体験しているそうです。



空き缶潰し



主に3グループ

ディスク分別

レンタルショップからディスクを回収



紙、ビニール、ディスクを分別 ← この部分の仕事をしています。



資源に出す → 中国などの海外へ。

作業所訪問

4グループ 作業と活動 (バランス型)

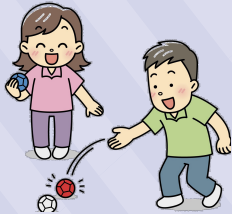
作業は屋外作業を中心にしています。

この日は武庫川での除草作業に出られていました。

草を刈ったらきれいになる作業内容は、

結果がわかりやすいです。

活動は週1回のウォーキングとカレンダーづくりなどの創作活動を中心に
行っています。



5グループ 活動がメイン

「余暇」と「運動」を中心に支援。

機能を維持するために、作業療法士など定期的に専門家にってもらっています。

ボッチャ、ボウリング、風船バレーやウォーキング等の運動、動画鑑賞など、他のグループから楽しみたい人がやってくることもあります。

取材を終えて

私が見学に来たのは、約10年前。

その時は、ほとんどの方が屋外作業に出ている、作業所内は空っぽでした。

今は、屋内で作業されている方も多く、高齢化とはこういうことかと実感しました。

送迎車が12台あり、ほとんどの方が送迎サービスを利用して通所されています。

車に乗り間違えるということを防ぐため、写真やマークを提示するなどの工夫がされていました。

バリバリ働いている方、のんびりゆったり過ごしている方など、多様なニーズに応えるためいろいろ工夫されているのが、良くわかりました。またインカムを導入し、タイムリーにスタッフ間で情報共有をしているそうです。

昼食は、厨房で作られています。できたての温かい食事は、うれしいですね。

食堂で食べることができるのですが、コロナ禍以降は、一部の方しか利用していないそうです。

食堂には、皆さんが楽しみにしている物がありました。それは飲料の自動販売機。どこの会社の機械にするか、皆で話し合って選んだそうですよ。

閉鎖中の喫茶室が、ボランティアグループさんのご協力もあり2024年1月から再開したという嬉しいニュースを聞きました。

利用されている皆さんが、とても楽しそうに過ごしている温かい雰囲気作業所だと思いました。

【啓発事業部 / 西宮啓発隊「輪・和・WA」】 活動中

平成21年に鳥取県から始まった「あいサポート運動」は、障害のあるなしに関わらず、当事者や家族、支援者等の話を聞き共に学んでいこうという運動です。西宮市では令和元年に鳥取県と「あいサポート運動」協定が結ばれました。

そして長かったコロナ禍が落ち着いた令和4年3月に、西宮啓発隊「輪・和・WA」は「あいサポート運動」のメッセンジャーを拝命しました。

そこから出動依頼が着実に増えています。令和4年度は全10件でしたが、今年度は2月末時点で15件終了、3月に2件の予定をしています。

◇令和4年度

- 8/17 あいサポーター養成講座/ななくさ学園（職員）
- 8/24 あいサポーター養成講座/苦楽園小学校（教職員）
- 10/31 あいサポーター養成講座/武庫川女子大学附属高等学校（生徒）
- 11/7 大社地区社協 福祉講座
- 12/6 塩瀬中学校（PTA）
- 1/30 小松地区社協 福祉協力員懇談会
- 2/20、2/24、2/28 あいサポーター養成講座/西宮市新入職員研修
- 3/7 あいサポーター養成講座/キッザニア甲子園（職員）



◇令和5年度

- 6/13 きんとーん作業所職員研修会
- 6/15 あいサポーター養成講座/南甲子園つなぐ会
- 8/18 あいサポーター養成講座/メインストリーム協会
- 9/13 あいサポーター養成講座/ななくさ学園（職員）
- 9/14 あいサポーター養成講座/鳴尾第一地区民生委員児童委員協議会
- 10/19、10/26、10/30、11/9 兵庫県新任職員研修
- 11/24 かめのすけ職員研修会
- 12/14 あいサポーター養成講座/西宮市役所職員研修（障害福祉課、生活支援課）
- 1/23 あいサポーター養成講座/市民向け
- 1/30、2/26 あいサポーター養成講座/西宮市新入職員研修
- 2/22 メッセンジャー会
- 他2件、予定あり



外からはわかりづらい知的障害の特性や感覚、気持ちを知っていただき、一人でも理解者が増えるように、ワークショップの腕を磨いて、活動の場を広げていきたいと思っています。「みんなちがって、みんないい」と思える地域社会を目指して、私たち西宮啓発隊「輪・和・WA」は活動中です。

『兵庫県新任職員研修を終えて』

西宮啓発隊「輪・和・WA」担当理事 加治 宏美

「輪・和・WA」 史上最も難度が高かった研修会のエピソードをご紹介します。

それは、ついに西宮市を飛び出して、神戸市垂水区は兵庫県自治研修所まで出張出動した兵庫県新任職員研修（科目：知的障害疑似体験）です。これをお話するにあたり、色々お世話になりました県の関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

毎年、県下のどこかの育成会が講師を引き受けている兵庫県新任職員研修ですが、今年は西宮市手をつなぐ育成会が行かせていただきました。300人の受講生を4回に分けて行う規模の大きさも、正味90分のプログラムで行うことも、市外へ出動というのも初めてではありましたが、コロナ禍が明けてからここ2年で実践経験をたくさん重ねた「輪・和・WA」なので、何とかなるのではと頑張ることにしました。

プログラムを検討するところから始め、出動日の振り分け、役割分担、応援メンバーを交えての段取り説明等々、準備が進んでいくにつれ、徐々に「輪・和・WA」メンバーに「こんなに綿密に出動準備をするのは初めてですね。」と緊張感が広がっていきます。そして緊張でいっぱいの中、全4回の研修が始まります。プログラムについては、5つのワークと新企画「保護者トーク」で構成しました。初回で上手くいかなかったところは情報共有して2回目に申し送り、2回目に…を繰り返して、3回目、4回目と回を重ねるごとに修正していきました。また、障害理解に繋がればという思いで取り組んだ新企画の「保護者トーク」は、思っていた以上に受講生の皆さんに好評だったようです。皆さん大変熱心に耳を傾けてくださいました。

改めて、この度は兵庫県新任職員研修に挑戦する機会をいただき、ありがとうございました。当初はあまりにも困難な課題に思えましたが、一致団結して取り組み、皆で乗り越えていくという、貴重な経験を得ることができました。この経験を、今後の啓発活動に活かしていけたらと思います。

これからも、「輪・和・WA」の活動をどうぞ温かくお見守りください。

のじぎくの会10月例会

2023年10月1日（日）に勉強会として、料理実習（鶏の唐揚げ）を開催しました。

JR西宮駅前に集合し、コープで、肉や調味料、付け合わせのサラダなどを買い、その後福祉センターの調理室へ向かいました。手羽の開き方を教えてもらったり、大きな肉の塊を食べやすいように、慎重にカットしましたが、みなさんとてもお上手でした。



次に調味料と合わせ、片栗粉をまぶしてカラッと揚げた手作り唐揚げは、見栄えも良く、上等の出来栄でした。試食会では、持参したおにぎりと合わせ、全員満足気に舌鼓を打ち、幸せな時間を過ごせました。楽しい企画で、すぐにアンコールの要望がありました。



近畿知的障がい者福祉大会本人大会

2023年10月21日（土）秋晴れの中、滋賀県守山市民ホールでの近畿知的障がい者福祉大会の本人大会に、本人会員5名、支援者3名が参加しました。

JR守山駅に11時前に着き、皆で早めのお昼ご飯を済ませて、滋賀県手をつなぐ育成会が用意して下さった送迎バスに乗って会場へ行きました。守山市は、蛍の街としても有名だそうです。

会場では、本人会員さんの顔見知りの方とも久しぶりに再会され、楽しそうに話をされていました。本人大会では、コロナ禍の中、どんな活動をしたか、また今後の活動予定を本人会員さんが発表したり、各所属で用意した3択ご当地クイズなどを楽しみました。

そのあと、葦（よし）で作られたよし笛演奏を聴き、心が和んだところで、閉会となりました。



(本人活動支援部 山口ひとみ)

第2回サロン活動を開催しました

2023年10月18日(水) 西宮市総合福祉センターにて今年度2回目となるサロン会を開きました。前半は、3つのグループに分かれました。第1回目のサロン会よりも、メンバーが住んでいるエリアが広がったからか、カフェなどの情報交換を活発に行っているグループがありました。後半は、所属ごとに3つのグループに分かれました。事業所に対して普段思っていることを語り合ったグループもありました。

どのグループも、話題が尽きず、和気藹々と歓談できて、親睦を深めることができたと思います。



クリスマスコンサートを開催しました



2023年12月23日(土) なるお文化ホールにて、オペラで活躍中のテノール歌手 中川正崇氏 ピアニスト 山本千紗氏によるクリスマスコンサートを開催しました。

障害がある人たちにとって、クラシックのコンサート鑑賞はハードルが高いものです。でも今回のコンサートは、障害のある人たちでも、楽しめる内容でした。

第1部は朗々と歌う「フニクリフニクラ」「犬のおまわりさん」などの童謡やコミカルな「あわて床屋」を、第2部はクリスマスソングを聴いたあと「あわてんぼうのサンタクロース」など、障害のある人、ない人も、老若男女を問わず、みんなで歌いました。とても楽しい時間でした。



鬼の
パンツは~♪



おめでとうございます！

2023年10月27日(金)、姫路市で開催された第67回兵庫県知的障害者福祉大会において、長年育成会活動の発展に貢献された本田洋子会長が理事長表彰を受けられました。



2023年11月18日(土)、加古川市で開催された令和5年度兵庫県障害者福祉大会において本田裕之さんが、兵庫県手をつなぐ育成会理事表彰長表彰「知的障害者就労表彰」就労10年表彰を受けられました。



障害者差別解消法が改正されました。

2023年5月、障害者差別解消法が改正され、2024年4月から施行されます。これまで民間の事業者の「努力義務」とされていた合理的配慮の提供が、国や地方公共団体などと同様に「義務」とされました。

詳しいことは、内閣府のサイトをご覧ください。



お詫び

「手に手を」87号賛助会員栗原様のお名前が間違っていました。正しくは、栗原裕実様です。訂正し、お詫び申し上げます。

会員を募集しています

一般社団法人西宮市手をつなぐ育成会は、知的障害者本人と保護者の会です。知的障害への理解と啓発に努力し、社会福祉の向上に寄与することを目的として、様々な活動を行っています。

正会員

講演会、研修会に参加して知識を深めたり、会員同士の交流を通していろいろ情報を得たり、他にも楽しいイベントを企画しています。私たちと一緒に活動しましょう！

入会金：入会時 10,000円（学齢期会員は免除）
年会費：10,000円（学齢期会員は、5,000円）

賛助

当会は、知的障害者とその人らしく生きていくための一助となることを願って活動をしています。賛助会員としてご支援くださいますようお願い申し上げます。

年会費：一口2,000円（何口でも可）

お申し込み・お問い合わせは

一般社団法人西宮市手をつなぐ育成会
〒663-8241 西宮市津門大塚町1-47
TEL:0798-33-7713
FAX:0798-33-7743
E-mail:teni-tewo@nishi-ikusei.jp

編集後記

昨年5月に開催された60周年記念総会・懇親会の取材からスタートした今年度の広報部の活動。この1年間に、多くの育成会の事業に参加して、記事を集め、編集に取り組み、88号を発行することができました。お忙しい中、ご協力いただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。